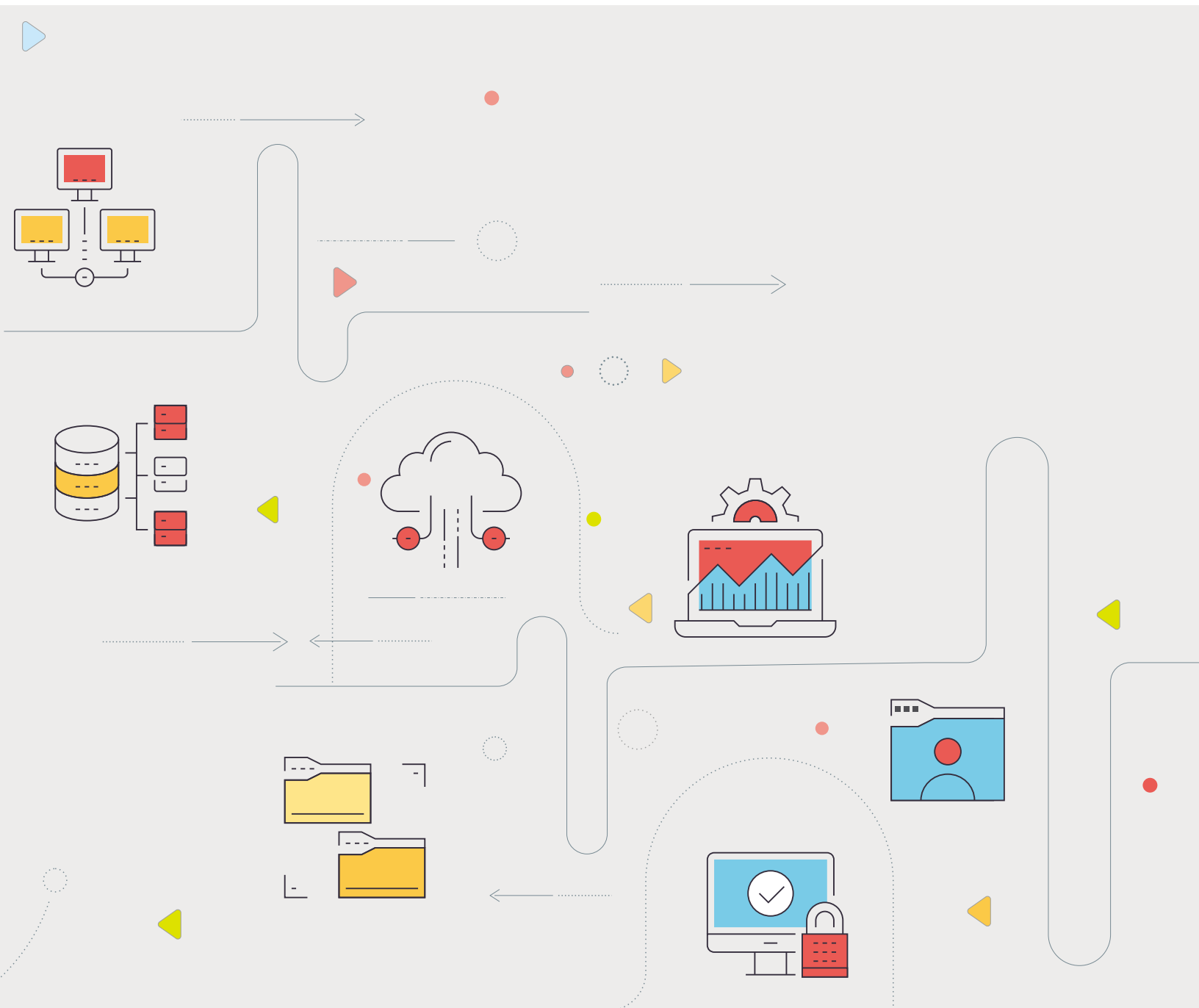


スタートアップガイド

Desktop Central Cloud



目次

- 1 システム要件
- 2 アカウントの作成
- 3 管理対象 (SoM) を定義する
- 4 エージェントのインストール
- 5 リモートオフィスの作成
- 6 ADコネクタの設定

1. システム要件

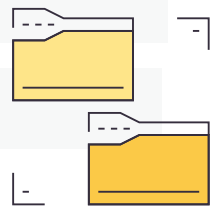
Desktop Central Cloudを利用するために必要なシステム要件は以下の通りです。

▶ 配信サーバーのハードウェア要件

▶ Desktop Centralエージェントに必要なハードウェア

▶ 配信サーバーのソフトウェア要件

▶ サポートされているブラウザ



配信サーバーの最小ハードウェア要件

管理対象の コンピューター台数	CPU	RAM サイズ	ハードディスク容量
1 - 500	Intel Core i3 (2 core/4 thread) 2.0Ghz 3MB cache	4GB	6GB*
501 - 1,000	Intel Core i3 (2 core/4thread) 2.9Ghz 3MB cache	4GB	12GB*
1,001 - 3,000	Intel Core i5 (4 core/8 thread) 2.3GHz	8GB	16GB*
3,001 - 5,000	Intel Core i7 (6 core/12 thread) 3.2GHz	8GB	20GB*

*この容量は各サーバーから配布されるソフトウェア・アプリケーションやパッチの数によって変わります。

Desktop Centralエージェントの最小ハードウェア要件

ハードウェア	要件
プロセッサ	Intel Pentium
プロセッサ速度	1.0GHz
RAMサイズ	512MB
ハードディスク容量	3GB*



*この容量は各サーバーから配布されるソフトウェア・アプリケーションやパッチの数によって変わります。

配信サーバーに必要な最小ソフトウェア要件

配信サーバーおよびDesktop CentralエージェントでサポートされているOSは以下の通りです。

配信サーバー

配信サーバーは、以下のWindowsオペレーティングシステムのいずれかのバージョンにインストールすることができます

- Windows Server 2012*
- Windows Server 2012 R2*
- Windows Server 2016*
- Windows Server 2019*

*5,000以上のエンドポイントの管理に推奨

Desktop Central エージェント

Desktop Central では、以下のOSを利用するコンピューターを管理することができます。

Windows OS	Windows Server OS	Mac OS	Linux OS*
Windows 10	Windows Server 2019	10.15 Catalina	Ubuntu 10.04 以上
Windows 8.1	Windows Server 2016	10.14 Mojave	Debian 7 以上
Windows 8	Windows Server 2012 R2	10.13 High Sierra	Red Hat Enterprise Linux 6 以上
Windows 7	Windows Server 2012	10.12 Sierra	CentOS 6 以上
	Windows Server 2008 R2	10.11 El Capitan	Fedora 19 以上
			Mandriva 2010 以上
			Linux Mint 13 以上
			openSUSE 11 以上
			Pardus 17、19

*2.6.33以上のカーネルバージョンをサポートしています。

モバイルデバイス管理

Android:version 4.0 以上

iOS(iPhone, iPad, iPod含む):version 4.0 以上

Windowsスマートフォン:Windows Phone 8.1 以上

Windows ノートパソコン(Surface Hub, Surface Pro含む):Windows 10

Chrome OS:version 57.0 以上

tvOS:version 7.0 以上

macOS:version 10.7 以上

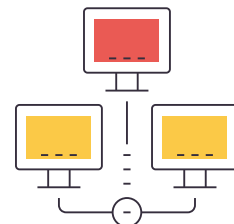
[注記]Desktop Central Cloudで管理するレガシーデバイスには、1.2以上のTLSバージョンが必要です。

対応ブラウザ

Desktop Central Cloudコンソールには、以下のブラウザからアクセスできます。

- Microsoft Edge (Chromium版)以上のバージョン
- Mozilla Firefox 44 以上のバージョン
- Google Chrome 47 以上のバージョン

[注記]画面解像度は1280×1024ピクセル以上であること。



2. アカウントの作成

ManageEngineのDesktop Central Cloudを利用するためには、Zohoのアカウント作成が必要です。このアカウントでDesktop Central Cloud にアクセスします。

● Zohoアカウントを既にお持ちの場合

ZohoやManageEngineのクラウドサービスを利用している場合は、既存のアカウントで自動的にログインできます。

● Zohoアカウントをお持ちでない場合

Zoho のクラウド製品に初めてアクセスする場合は、アカウントを作成し、以下の情報入力が求められます。

▶ 名前

▶ 会社名

▶ メールアドレス

▶ 電話番号

[注記]ここで入力された組織の詳細は機密事項です。ここで作成したアカウントがスーパー管理者となります。

- 1 ご入力いただいたアドレスに確認メールが送信されます。
確認が完了すると、アカウントが作成されます。
- 2 Desktop Central コンソールにリダイレクトされます。
今後、Zohoアカウントを利用しDesktop Centralにアクセスできます。
- 3 技術者を登録するために、Eメールで招待状を送ることが可能です。



3. 管理対象 (SoM) を定義する

Desktop Central にログイン後、ターゲットドメインやワークグループを決定することで管理対象を定義します。以下の手順でドメインやワークグループを追加できます。

1 [エージェント]タブへ移動します。

左メニューより [ドメイン] > [ドメインの追加] を選びます。

[注記]ドメインまたはワークグループを追加する場合は、管理者権限を持つ資格情報が必要です。このスーパー管理者アカウントは、ネットワーク全体にDesktop Centralエージェントを配布するために使用されます。

2 ドメインを追加するには以下の情報が必要です。

パラメーター	詳細
ドメイン名	ドメインの名前
ネットワークタイプ	「Active Directory」を選択してください。
管理者のユーザー名	ドメイン管理者権限を持つユーザー名。パスワードポリシーを「無期限」に設定した管理者アカウントを作成することを推奨します。
パスワード	ドメイン管理者のパスワード
AD ドメイン名	Active Directory ドメインの完全修飾ドメイン名 (FQDN)
ドメインコントローラー名	複数のドメインコントローラー(DC)がある場合は、サーバーがインストールされているコンピューターに最もホップ数の小さいドメインコントローラーの名前を入力してください。

3 ワークグループを追加するには以下の情報が必要です。

パラメーター	詳細
ドメイン名	ワークグループの名前
ネットワークタイプ	「ワークグループ」を選択してください。
アドミンのユーザー名	ワークグループ内のすべてのコンピューターで管理者権限を持つユーザー名。パスワードポリシーを「無期限」に設定した専用アカウントを作成することを推奨します。
パスワード	管理者ユーザーのパスワード
DNS Suffix	ワークグループ内のコンピューターを識別するために必要です。 (例) 2つの異なるワークグループ内に同じ名前のコンピューターがある場合、DNS サフィックスを使用して識別します。



4. エージェントのインストール

ドメインまたはワークグループの作成が完了したら、Desktop Centralのエージェントを管理対象となるデバイスにインストールします。

エージェントのインストール方法や詳しい手順については、別ドキュメントをご参照ください。

5. リモートオフィスの作成

世界各地に展開する企業が増えるにつれ、ローカルオフィスとブランチオフィスの両方にあるすべてのエンドポイントの管理とセキュリティ保護は、IT管理者にとって煩雑なプロセスとなっています。さらに、ローミングユーザーの管理が課せられており、非常に困難な作業となっています。

リモートオフィスは、物理的なローカルオフィスであっても、世界のさまざまな場所に分散したネットワークであっても構いません。Desktop Central があれば、ローカルおよびリモートネットワークの管理が簡単になります。Desktop Central サーバーに以下の方法で通信できるリモートオフィスを作成する必要があります。

1. 配信サーバー (DS) を介した通信

2. 直通信



DSを介したリモートオフィス

配信サーバーは、Desktop Central サーバーからパッチやソフトウェアのバイナリを複製し、その名の通り、リモートオフィスのエンドポイントにパッチやソフトウェアのバイナリを配布します。これにより、帯域幅のボトルネック問題が大幅に軽減され、ネットワークの帯域幅が最適化されます。

[注記] 配信サーバー専用のパソコンを用意することをお勧めしますが、手間のかからない通信を実現するために、固定IPアドレスを設定しておきましょう。

- 1 [エージェント]タブへ移動します。
左メニューより[リモートオフィス]>[リモートオフィスを追加]を選択します。
- 2 リモートオフィス名を指定します。
- 3 デフォルトでは、選択された通信タイプは配信サーバー(DS)となります。
- 4 ドメインNetBios名、DSをインストールするコンピューターの名前、IPアドレス、FQDN/DNS名など、必要な情報を入力します。
- 5 レプリケーションポリシーを構成して、リモートオフィスと関連付けるようにします。
組織のニーズと利用可能な帯域幅に合わせたレプリケーションポリシーを新たに作成できます。
- 6 プロキシ設定を行い、必要なコンピューターを追加します。

直通通信のためのリモートオフィス作成

小規模なブランチオフィスやテレワーク中などの場合は、配信サーバーを設置しないリモートオフィスを設定します。

- 1 [エージェント]タブに移動します。
左メニューより、[リモートオフィス] > [リモートオフィス追加]を選択します。
- 2 リモートオフィス名を指定します。
- 3 コミュニケーションタイプは直通通信を選択します。
- 4 レプリケーションポリシーをリモートオフィスに関連付けるように設定します。
組織のニーズと利用可能な帯域幅に合わせたレプリケーションポリシーを新たに作成することができます。
- 5 プロキシ設定を行い、必要なコンピューターを追加します。

6. ADコネクタの設定

Desktop Central Cloudを導入することで、サーバーを搭載したマシンが不要になり、ハードウェアインフラストラクチャの設定や維持にかかる時間とコストを削減することができます。Desktop Central サーバーは、当社のデータセンターでホストされるため、お客様のネットワークのActive Directory(AD)と通信することはできません。

ここで、Desktop CentralのADコネクタを利用します。ADコネクタは、DesktopCentralサーバーと組織のドメインコントローラーとの間で通信を行うコンポーネントです。配信サーバーの1つをADコネクタとして構成することができます。選択した配信サーバーからお使いのドメインコントローラーがアクセスできることを確認してください。

1 [エージェント] > [ドメイン]へ移動します。

2 ADコネクタメニューより、ADコネクタとして動作する配信サーバーを選択します。

[注記]一度ADコネクタを構成すると、削除することはできません。ただし、ADコネクタとして動作するコンピューターをリプレースする(または、それを含むリモートオフィスを削除する)場合、上記の手順に従って、ADコネクタを別のマシンに変更することができます。配信サーバーのアンインストールやリモートオフィスの削除は、ADコネクタを変更した後にのみ行うことができます。



お問い合わせ

評価版の使用期間 / 製品ご購入後の技術サポートは、以下のリンクよりご利用ください。

- ▶ 評価版サポート <https://www.manageengine.jp/support/trial.html>
- ▶ 製品ご購入後のサポート <https://www.manageengine.jp/support/purchased.html>

Desktop Central に関するご質問・ご購入は、下記までお問い合わせください。

製品提供元

ゾーホージャパン株式会社

神奈川県横浜市西区みなとみらい3-6-1 みなとみらいセンタービル13階

Tel : 045-319-4612 (ManageEngine 営業担当)

Web サイト : https://www.manageengine.jp/products/Desktop_Central/

E-mail : jp-mesales@zohocorp.com